

INFORMATION

FANTANIMA! 今年も東京・大阪で開催！

3回目を迎える FANTANIMA! 国内でも海外でも動物もの好きなファンの方や作家の方に愛されるイベントとしてすくすく育っています！今年も国内で活躍中のベテラン・新人作家に加え、ロシア、ウクライナ、エストニアなどからニューフェイスが続々。国境も戦争もない FANTANIMA! の世界。かわいい愛を探しにきてくださいね！

東京展 4月29日（水）～5月5日（火）
9:00～21:00（最終日は16時閉場）入場料無料
会場：丸の内オアゾ 丸善本店4F ギャラリー
東京都千代田区丸の内1-6-4 oazo ビル内
TEL 03-5288-8881（代表）

大阪展 5月14日（水）～5月26日（火）
会場 乙女屋 SALON、珈琲舎・書肆 Luft アラビク
（アラビクでは5月28日から6月9日まで継続開催）
・珈琲舎・書肆 Luft アラビク
大阪市北区中崎3-2-14 TEL 06-7500-5519
13:30～21:00（日祝～20:00） 火曜不定休・水曜定休
・乙女屋 SALON 大阪市北区浮田2-7-9
TEL 090-1915-9087 休業日はお問い合わせ下さい。
会期中、ワークショップを開催。詳細は専用ウェブサイトをご覧ください。
<http://fantanima.nonc.jp/>

チーム・コヤーラのウェブサイト、引っ越します。

現在、下記のアドレスに移行中です。
ブックマークの変更をお願いいたします。
<http://koyaala.jp/>



今年の FANTANIMA! の
ご案内役、ファミマ3号です！
制作 青の羊



「DOLL FORUM JAPAN」 再起動！

チーム・コヤーラの活動のルーツとなった創作人形情報誌『DOLL FORUM JAPAN』がウェブマガジンを開設しました。DFJが目指した創作人形に関する批評空間を継続したいと思います。更新は不定期。
<http://dollforum.blogspot.jp/>



コヤーラ・クラブ入会条件

入会金なし 年会費：2300円（更新時に2年分一括払いの方は4500円となります。）
年4回（1・4・7・10月）のチーム・コヤーラのニュースレターとDM便が届きます。

お申し込み方法

年会費2300円を以下の方法でご送金ください。
【郵便振替】 通信欄に「コヤーラ入会」とお書きください。
送金先 「口座番号」 00140-7-358370 「口座名」 チーム・コヤーラ
*ご入金を確認できたらチーム・コヤーラよりハガキで受領証と会員証を兼ねたお知らせをお送りし、次の号から「コヤーラ通信」をお送りします。更新時には、有効期限内の最後の号を発行するときに、更新のお知らせを同封いたします。

DM同封希望の方（発行月から3ヶ月の間に展覧会を予定されている方）

事前に枚数などお問い合わせの上お申し込みください。同封DMは発行月の前月20日にチーム・コヤーラ必着でお送りください。
同封料金 コヤーラ・クラブ会員：2000円 一般（非会員）：3000円

紙上展応募の方

会員の方の人形の自作品の写真を受け付けております。
22号㍻切 2015年6月1日（必着）
以下を下記まで、郵送かメールでお送りください。

乙女文楽 若手公演

5月2日（土）、3日（日・祝） 両日開演11:00/15:00（開場開演の30分前）
会場：ひとみ座第1スタジオ 神奈川県川崎市中原区井田3-10-31
料金：前売2500円、当日3000円
演目：「二人三番叟」「近頃河原の達引」堀川猿廻しの段
出演：ひとみ座乙女文楽
演奏：竹本越孝（語り）、鶴澤寛也（三味線）、鶴澤津賀花（ツレ）〔（一社）義太夫協会〕（「近頃河原の達引」堀川猿廻しの段）
チケット申込先
公益財団法人 現代人形劇センター
Email ticket@puppetor.jp TEL 044-777-2228

公開稽古を見てきました。

男性三人が一体の人形を操演する文楽に対して、女性一人で人形を使えるように工夫したのが「乙女文楽」。「胴金」という人形の背骨にあたる芯棒を演者の腰に固定し、両手、両足が人形の動きと重なるように演じます。もっとも特徴的なのは、演者の後頭部から人形の後頭部につながる「耳ひも」。演者の首の動きにあわせて人形の頭が動きます。昭和初期、大阪で文楽の人形遣い五世桐竹門造によって考案された乙女文楽では、主な演者は少女たちだったそうです。それから弟子の桐竹智恵子を通じてひとみ座の女性座員に乙女文楽は継承されてきました。三人がかりの文楽に対して、一人操演の乙女文楽は演者の思いに添った細やかな表現が得意。まだまだ変化し成長する乙女文楽。頑張る若手を応援に行かれてはいかがでしょうか。
（羽関チエコ）



※写真は今回の公演の演目のものではありません。

チーム・コヤーラからのお知らせ

●会費値上げのお知らせ

いつも利用していたヤマトメール便のサービスが本年3月をもって終了するため、次号よりコヤーラ通信の発送は普通郵便にいたします。これにより、2015年4月からの入会、更新を対象に会費を1年2000円から**2300円（2年一括払いは4500円）**に値上げさせて頂きたいと思います。会員の皆様のご理解を頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

（1月の20号発送時に事務局が発行した振替用紙をお持ちの会員の方は、振替用紙記載の金額でお支払いください。）

●アンケートをご利用下さい。

同封されているアンケートは、会員の皆様のご希望やご意見を伺うためのものです。このアンケートから、活躍のステージを発展させた方もいます。どうぞご利用下さい。

作品写真2～3点（全体・アップ・裸形） サイズ：ハガキ大。
「会員番号」「作家名」「タイトル」「素材」「サイズ」他、簡単なコメントなど。
*何点でも応募できますが、誌面の都合上掲載はお一人1点になります。
*応募作品はウェブ上で公開されることもあります。（講評は紙面のみ掲載）
*応募書類は返却いたしません。

個人情報について

頂いた個人情報はチーム・コヤーラの業務委託を受ける HAZEKI office が厳重に管理します。名簿はチーム・コヤーラのニュースレター発送に使用させていただく他、チーム・コヤーラの趣旨に沿ってDMクラブ会員にとって有益と判断した情報を伝達する以外には一切使用せず、チーム・コヤーラ以外の第三者が閲覧、使用することは一切ありません。

各お申し込み・連絡先

チーム・コヤーラ
東京都東村山市久米川町3-27-57 HAZEKI office 内
TEL 042-395-7547（担当 ハゼキ）
FAX 042-395-7975
URL <http://koyaala.jp/>
Email team_koyaala@yahoo.co.jp

KOYAALA 通信 編集責任者 羽関チエコ（HAZEKI office）

©KOYAALA TSUSHIN 2010, printed in Japan 本紙記載の記事・写真の無断使用・転載を禁じます。



KOYAALA 通信 No.21

Apr.1, 2015



「KOYAALA 通信」は、チーム・コヤーラがコヤーラ・クラブ会員に発行するニュース・レターです。年4回発行 発行日（予定） 1月1日、4月1日、7月1日、10月1日

みそろぎ人形展 が試みたこと

Misorogi Ningyo-ten



①

人形の面白さは神出鬼没、アート、工芸、ホビー、あるいは道の片隅のどこにも姿かたちを変えてあらわれる自在さにあります。しかし人間とは不自由なもので、そのかたちに名前や場所や数字で境界を与えようとしています。

私は創作人形がその自在さに一番近いものだと感じていましたが、年を経るごとに創作人形内部の棲み分けが進み、流行市場向けでない技法や素材のものはマイノリティになり、いい意味での表現の相互干渉の機会は減ってきました。

今回の「みそろぎ人形展」では、その相互干渉の火花を散らすべく、創作人形と対極にある量産、土産品である郷土人形と創作人形のコラボレーションを試みました。「みそろぎ」とは、英語の mythology（神話学）を日本語読みした造語です。土着信仰や空想の精霊やひとがたを集めたいと思いました。

目に見える市場の動きの水面下では、作り手の人たちのアンテナは健在です。古きよきもの、記憶の隅に追いやられそうなかたちを彼らが心のなかで宝としてあため続けるなかに、郷土人形があります。民俗人形は原始的な祈りのかたちが幾多の年月を経て、玩具や土産品に姿を変えたものですが、手作業にあわせてデザインが洗練され、誰もが買い求めやすいように価格もこなれています。

一世代の限られた時間で制作される創作人形が郷土人形と並ぶとき、創作の面白さをどこまで訴え、一点物の価値を納得させるかというのは、創作の作家にとって非常にハードルの高い試練だったと思います。一方、後継者問題を抱える郷土人形は、現代のライフスタイルに合わせて存続していくことが課題です。

創作と郷土人形あわせて国内38、ロシアやバルト三国など海外20の出品者による展示は好評で、メインビジュアルの高松宮内張り子の「奉公さん」は大ブレイク、宮内張り子の他の人形や追加納品含めほぼ売切いたしました。他にも張り子作品は人気で、張り子の魅力を再認識できたのも本展関係者の収穫でした。

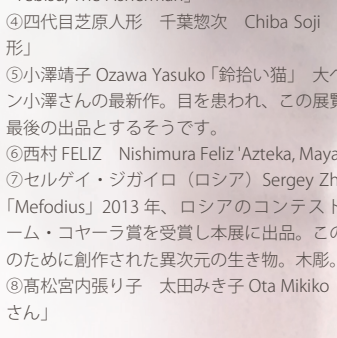
本展はチーム・コヤーラとともに育てる企画です。来年も同時期開催を予定、今年の火花の効果を発揮したいと思います。会員の皆様の応援をよろしくをお願いいたします。

文 羽関チエコ（みそろぎ人形展企画）

2月4日～10日 丸善丸ノ内本店ギャラリー（東京）



③



①ディムコヴォ村の土人形 Dymkovo Toy 16世紀からウラルに伝わる土人形。モダンなデザインと色合いが特徴。現代の職人がさらに新しいデザインを加えロシアの土産物として人気を博す。
②水澄美恵子 Minazumi Miekko 「桶の変化」
③安達忠良 Adachi Tadayoshi 「Yebisu, The Fisherman」
④四代目芝原人形 千葉惣次 Chiba Soji 「雛人形」
⑤小澤靖子 Ozawa Yasuko 「鈴拾い猫」 大ベテラン小澤さんの最新作。目を患われ、この展覧会を最後の出品とするそうです。
⑥西村 FELIZ Nishimura Feliz 'Azteca, Maya」
⑦セルゲイ・ジガイロ（ロシア）Sergey Zhigailo 「Mefodius」2013年、ロシアのコンテストでチーム・コヤーラ賞を受賞し本展に出品。この展示のために創作された異次元の生き物。木彫。
⑧高松宮内張り子 太田みき子 Ota Mikiko 「奉公さん」



REVIEW

宮本寿恵子

宮本寿恵子さんは 1999 年に開催された新世紀人形展にて四谷シモン賞を受賞された作家さんです。受賞作品の印象が強くオブジェ作品を作られる作家という印象があったのですが、「絶滅した生き物たち」をイメージされた不思議な味わいのある動物のシリーズ等、人形のカタチもまた異端で魅力的でした。作品全体の印象として青色が強く、ご本人にとってもお好きな色との事。個人的に使うのが苦手な色なので、深い海を想起させるような青の使い方には思わず羨望の眼差しを連射。刺激享受させていただきました。(西村 FELIZ)

宮本寿恵子展「バラ色の未来をください 2014」

2014 年 11 月 27 日 -12 月 6 日

どんぐりこころ

(千葉県浦安市)

Miyamoto Sueko



第 2 回チャリティー創作人形展

震災の日は寒くて震えが止まらなかった事を思い出します。春といってもまだ肌寒いこの季節ですが達磨ストーブの助けも借りて暖かな会場となりました。震災から四年の月日が経ちましたが茨城も東北もまだまだ復旧の途にあります。来場者が作品をみて笑顔になってくれるような展示会にしたいとの思いから人形制作者の仲間 19 名と共に作品の一つ一つを丁寧に心を込めて制作しました。募金箱には 15 万円を超える寄付金が集まり被災地を思うやさしさを感じる事ができた展示会でした。(知神けい子)

3 月 3 日～8 日開催

偕楽園公園センター (茨城)

写真：寺門好子作品





ドールアート展 2015 in うつくしま

Doll Art Exhibition & Concours 2015 in Utsukushima (Fukushima)

隔年の開催で今年で 8 回目を迎える同展は、3 月 7 日から 14 日まで福島市で開催されました。7 回目を迎える全国創作人形公募展も併催。実質的な企画・運営は大竹京人形教室が中心になって行われています。

今回はロシアからマリア&スヴェトラナ・ザブロツカヤ親子とオランダからイヴォンヌ・フリプシを招き、前回大賞受賞者の尾花智子を含む三輪輝子、戸田和子、粧順、安藤早苗 10 人の招待作家に、粧順人形教室、大竹京人形教室の展示と 95 点の応募作品による公募展の構成で、総数約 600 点が並ぶ大規模な作品展となりました。

デパート催事などで人形展の取り組みが減少するなか、最近是全国規模の人形展や公募展を人形作家自身が主催する傾向がありますが、福島の大竹京教室の取り組みはその先駆けといえます。前回からは福島は被災地としてのハンディを抱えながらの運営となりましたが、オープニングには小林香福島市長からの祝辞があり、福島から人形文化を発信するイベントとしてエールを送られました。2020 年のオリンピックの年に福島で国際的な人形展を開催するという大きな目標にむかい、今展は大きく一歩前進した感がありました。(文 羽関・敬称略)

3 月 7 日～14 日 MAX ふくしま A・O・Z (福島県福島市)

写真①大竹京 ②左より 小林香福島市長、マリア&スヴェトラナ・ザブロツカヤ、大竹京、イヴォンヌ・フリプシ ③戸田和子 ④因間りか ⑤マリア&スヴェトラナ・ザブロツカヤ ⑥イヴォンヌ・フリプシ ⑦三輪輝子 ⑧教室展会場

photo ① Otake kyo ② from left: Mr.Kobayashi the Mayor of Fukushima city, Maria & Svetlana Zabrotkaya, Otake, Yvonne Filipse ③ Toda Kazuko ④ Inma Rika ⑤ Maria & Svetlana Zabrotkaya ⑥ Yvonne Filipse ⑦ Miwa Teruko ⑧ exhibition site

コンクール概評

審査員 羽関チエコ

95 名の受賞者のなか、15 人が福島県知事賞をはじめとする各賞を受賞。大賞受賞者の三人の得点は、他の受賞者の得点を引き離しての受賞でしたが、そのうち二点が固定ポーズだったのは興味深い結果でした。というのも、主催者、関係者の作品が球体関節人形が中心で応募作にも球体関節作品が多く見受けられるなかで、情景とポーズをしっかりとらえた人形作りの良さが目立ったのかもしれません。いいかえれば球体関節人形の出品作品は、なぜ関節人形なのかという必然性が感じられない点が気になるのです。固定、オブジェなどはその点で入賞作以外にも秀作が見受けられました。



